都道府県名	22_静岡県
市区町村名	22000静岡県
自治体区分	都道府県

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名		課題の類型 2	的に取り組む課題に 背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左配票屋の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	教状	#	目 本票の年 値 度	実を	アウトカムの達成皮に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
	'	-			PAROTECOLOR / OPPLIFICACIONAL	(7.7F)(A)	MI O IE DE	-0	2 1			
22_静岡県	②学校と地域 の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	教員が直接地域等の方に連絡 を取って地域学校信働活動を 実施にて負担となっている。推 進員が学校にいない。	名となり、配置が進んで	県主催で養成講座を開き、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的 推進について仕組みを理解した地域学校 協働活動推進員を育てる。	学校と地域との連絡調整や活動 内容の充実等を行う地域学校 協働活動推進員を増やし、教員 の業務負担軽減につなげる。	地域于牧勋副治副	36	٨	40	41	10 本 東京 の日 曜里を は教育の業務負担が転端された。一方で、本事業への理解 連点 に世級整があり、推進員が整備されていない学校もある。地 は 20 で学校の理解に向け、引き続き推進員養成講座及び各 3世 がかち。 かかち。
22203沼津市	②学校と地域 の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	「地域総がかり」で子どもたちを 育てることができるよう、学校 地域の連携を持続可能なもの とし、地域学校協働活動をより 充実したものとする必要があ る。	域学校協働本部を令和5	地域学校協働活動を推進する体制を持 続し活動をよりよい4のとするため、地域 学校協働活動推進員等を対象に研修を 実施する。	学校と地域が相互の連携・協働 のもとに学校づくりと地域づくり を進めることにより、地域学校協 働活動の充実を図る。	年間の地域学校協 働活動に参加したボ ランティアの人数。	641 5	٨.	700 0	207 71	
22205熱海市	③学校と家庭 の課題	家庭等における学習習慣の 定着	家庭環境等の理由により、学 状以外で学習を行う習慣がない、 い児童生徒が増えており、学 状の授業以外で学習を行うこ とに対する指導等が学校、家 庭の共通の課題となっている。	各中学校区ごとで小中別に推進委員を配置し、学習スペースと機会を確保し、学習スペースと機会を確保してきた。土曜日の午前に実施し、生活習慣の乱れを未然防止するとともに、子どもの学習を下寧に支援しが学習内容が定着するよう支援してきた。	・各中学校区ごとで小中別に推進委員を配置し、学習スペースと機会を確保する。 ・土曜日の午前に実施し、生活習慣の乱 ・大田田の中市に実施し、生活習慣の乱 回、中学生は18回実施する。 ・支援展各を板区ごとに2~3名ずつ配置 し、子どもの学習を丁寧に支援する。	学校以外で日常的に学習を行う 児童生徒が増える。	参加する児童・生徒 数が10人以上とな る校区数。	1	校区	3	0	ot as general (現立生徒数の減少から、土曜日学習の参加者が想定ほど (東京) 開立生徒数の減少から、土曜日学習の参加者が想定ほど (東京) 開加しなかった。児童生徒が望む学習支援の方向性を検討 (東京) (東r)
22206三島 市	①学校運営 上の課題	教職員の時間外勤務の 足正	各地域学校協働本部で放課後 学習支援を行っているが、学 習支援長が不足する場合、教 員が補助に入金や松がある。 このことにより、本来の業務が できず、時間外労働につながっ ている。	すために、各本部と市で ボランティア募集を行うと 共に、市が学生アラン	放課後学習支援で教員が補助している 学校は、地域学校協働本部や教育委員 会で協力して、学習支援員を確保する。	放課後学習支援の教員の補助 の人数を0人にして、教員の時 間外労働につながらないように する。	放課後学習支援に参加した教員の人数	10	٨.	5	5	03 *** 地域学校協働本部の努力により放課後学習支援に参加す 200
22206三島 市	②学校と地域 の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	各地域学校協働本部で不足す を学習支援員を教育委員会で 大学生を募集しているが、年度 により確保できる人数が変わっ てしまい、派遣できない場合が ある。毎年、安定して派遣でき る人数を確保する。	加した学習支援員に声掛けを行い、さらに大学に出向いて講義を行われます。	市内の大学に学習支援員の募集をする のは当然として、市内から都内や遠方に 選挙している学生にも募集をかけて、学 習支援員を多く確保する。	学習支援を行う学生ボランティアを十分な数確保することで、 子ども達への学習支援を強化する。	大学生の学習支援員の人数	23	٨.	30	15	00 8年 本年度は、大学生ポランティアの参加が少なく、市内にある 800 8年 大学に募集を掛けていたが、継続を含めての参加が少な 800 8年 大学に募集を掛けていたが、継続を含めての参加が少な 800 8年 大きった。一次できる限少本年度参加した大学生については、継続 800 8年 ようようにお願いをするとともに新規の大学生の獲得につい 800 8年 ようようにお願いをするとともに新規の大学生の獲得につい 800 8年 ま
22207富士 宮市	①学校運営 上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	学習支援や環境整備でポラン ティアを依頼することは進んで いるが、取機の目的を学校と ポランティアと共有る時間が 十分に確保できていない。	や本来の役割について	・地域学校協働本部の整備を進める。 ・地域連携担当職員や地域コーディネー ターの東大す役割を設する。 ・8本部の取組を担任する場を設け、必 要に応じて改善を図るようにする。	・学校が示す目標を学校・地域 家庭で共有し、学校を核とした 地域づくりを進め、地域社会全 体でこともを育成する体制が整う。	各本部で行われた 目的を共有するため の打ち合わせの平 均回数(アンケート)	-	件	10	24	各本部において担当教員と地域コーディネーター、地域コーディネーターとボランティアの打合せを行う回数が大幅に増え、目的の共有をしっかりと行うことができている。 3 本年 第00年 第10日 第10日 第10日 第10日 第10日 第10日 第10日 第10日
22207富士 宮市	②学校と地域 の課題	その他	コロナが5頭に引き下げられ、 校外学習や地域行事、参加す る機会が戻ってきた。今後さら にこどもたらが地域の方とかれ あい、学びを深める機会を増 やしていきたい。	で地域の人材を活用した, 事例等について紹介する	・地域コーディネーターの研修会で、地域 ネットリークを広げていく取組について事 例を支えて紹介する。 ・地域連携担当教員を研修会に参加する。 ・北域連携担当教員を研修会に参加する よう呼びかけ、地域とのふれあい、こども の学びを深める手立てについて事例を交 えて紹介をする。	機会が増え、学びを深めてい	児童生徒が地域の 人の話を聞いたり、 一緒に学んだりする 機会の平均回数(ア ンケート)	-	件	3	3	各本部において、地域の特色を生かした活動ができている。 現室・生徒が地域の人から話を何う暗像が増えたことで、地域でしか知ることができないが電影を得ることができ、飲合いないでは一般である。 なる また知り合うことで地域の中でのコミュニケーションも増えて まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 は、ま まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 まのま。 ま 。 ま 。 ま 。 ま 。 ま 。 ま 。 ま 。 ま
22208伊東 市	②学校と地域 の課題	学校支援ポランティアの確 保・育成	児童生徒にとっては、多くの地域住民に触れる中で、多様な 球性民に触れる中で、多様な 活動を経験することは、自己の 形成や心の数のにもつなが る。 しかしながら、地域学校協働本 部について、住民理解が進ん でいないことに加え、高齢化の 進展等から、学校を支援する ポランティアが不足している。	象校では、地域コーディ ネーターが中心となり、 総合学習を行う講師の調整や読み聞かせ等のボ ランティア募集に係るサ ボーター会議を行うな	・対象校に配置する地域コーディネー ケー同士の協議機会を創出し、横の連携 を強化することでボランティア拡大に務め ・広報報を通して、地域学校協議本部の 制度周知を行うことで、市民の理解促進 を図り、市民のボランティア機の商威を 図る。 、対象校を2校拡大するとともに、地域 コーディネーターを新たに1名配置する。	ボランティアの人数を増やし、児童生徒に多様な活動を経験し、自己の形成や心の教育につなける。	ボランティアの延べ人数	751	.	760	977	地域学生協働本部の対象状では、地域コーディネーターが 中心となり、総合学官を行う講師の調整や色下板の見守り、 添き、地がして、のボランティア募集を行うなど、精力的に活動 いただいた。 は、までので、地にデランを配合や金合等での呼びかけというに まの数り組みが、新たなボランティアの確保に繋がり、児童や生 組みました活動の場を提供することもできた。
22210富士 市	③学校と家庭 の課題	家庭等における学習習慣の定着	家庭環境が多様化する中で、 家庭において安心して学習できる場合支援者の確保がある。 学習支援を必要とする児童生徒に対する指 導等が学校、変庭の共通の課題となっている。	地域の人材等による学 習支援ボランティグを学 校だとに配置するととも に、学習の最を提供し、 学習支援に取り組んだ。 活動内容やボランティア の調整を行う学習支援 コーディネーターを配置 した。	引き続き安心して学習できる場の確保と 機能した学習を頂を行っていて、その際 に、児童生生が必要とする実践を見様 め、児童生後の自己肯定感が高まるよう な取組にしていく。	児童生徒の学習の場が確保され、学習において支援を必要と する児童生徒に対する指導等を 行うことで、学習習慣が身に付 く。	「旅課後学習を通し て、学習の習慣が身 についてきた」に対 して「そう思う」と回 答する児童生徒の 割合(本事業のアン ケート調査)	51	%	60	54	児童生株の学習の場を確保するとともに、学習に対する児童生株の学習の場を確保するとともに、学習に対する児童生株のニーズに戻るる支援体制が構築された結果として、学習環境分に付いてきた。しかしながら、市内会校での実施には至らず、引き株舎、学園を買っまた。地域の特性に合わせた取組方や実施回数で実施する。 1862年 上とかできるよう放課後学習の在り方を検討してしく。 1863年 1875年 187
22215御殿場市	③学校と家庭 の課題	家庭等におけ る学習習慣の 定着	核実族化、共働き世帯の増加 等により、子どもの勉強を十分 に見ることのできない家庭が増 えている。	室等を、小学校8校9教室	年間26回程度の学習教室等を、小中学校9校10教室実施する。学校や公民館等で、学校とは異なる指導者や仲間と共に学ぶ。	る。目標を決め、自分から進ん	学習教室への子ども の参加人数	145	٨.	150	150	指導者が子どもだけでなく、保護者ともコミュニケーションを 取った。約束率や目標を決め、パリハのある指導を行った。 ナイと同立て収え合ったり交流を作る時間を作ったりと、 向しなを育んだ。 つっても推進員が、子どと更に深く関 は、 のは、からないできるように、リーダーの心配率等を削き、声かけ は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
22219下田 市	①学校運営 上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	学校と地域との連携が求められる事業の実施にあたり、必要な人材の選定、各所との連続。 調整業務、各校の教職員の負担となっていた。 特定員には、「推進員」と配置したことで一定の成果が得られたため、合物の各項より、対策がよれたため、合物の各項より、対策がよれたない、七種連員を要領、配置するいことを推進したといても推進員を要領、配置する。	員が担当していた受入先 の選定~連絡・調整業務 までを一括して担うこと	整仮を担うことで、学習や行事等に対し、 地域人材が構築的に関すてきるような体 制を整備するとともに、中学校で成果が 見られたように、これまで発生していた教 職員の負担軽減を図る。 また、小学校を全校一斉に対象とするこ とで、学校開で取組内容に温度差が生じ	地域との協働を進め、学校の来 務負担の軽減を図るとともに、 推進員等が学校の学習やすこと で、学校と地域の連携・協働を 推進し、子ども地域の連携・協働を 推進し、子ども地域の連携・協働を を 日指す。	推進員等が学校の 学習や行事等に関 与する回数	5	件	26	19	令和6年度においては、市内小学校に推進員を配置し、地域住民とともに数値は学校行事等に積極的に参加いただ。 ま、目標を下回ったが、数値は上昇した。推進員を配置し、 ばかりなか。活動内容に関する打ら合わせ等、力針決定。 10 ま。 10 ま 。 10 ま。 10 ま 。 10 ま 。 1

実施 自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左配票屋の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	数値の	単目に	本実 本 年載の年	/ ファルムの連成後に関する計画・方信
			学校と地域が連携、協働して 行う体験活動などの教育活動 を、持続、発展させていくことが	推進員が学校と地域の つなぎ役になり、活動を 理整することで、活動の	・地域学校協働本部ごとに推進員を配置 し、地域学校協働活動の企画、調整等を 担う。	地域学校協働活動に参加し、児 童生徒に関わる人や機会が持 続、増加する。					学校運営協議会と一体的に取組を進めることにより、活動 の広がりや関わる人の増加が見られた。このような事例を市 内で共有し、市全体での活動の広がりや改善につなげてい
22220裾野市	①学校運営 上の課題	社会に開かれ た教育課程へ の対応	で、行政、お成でせていいことが 課題となっている。	映画学がことで、活動のが 広がりが少しずつ見られ ている。	***こま・エティ・スクールとの一体的推進を 図るため、コーディネーシーとの合同研修 会等を実施し、つながりの構築を促進す る。	SC. HEINLY Vo.	の座へ入奴	450 0	人 460 0	467 1	て、大学行、加工体での活動のはかがや以前に、Jall CC ことが今後の課題である。 は、100 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10
22220裾野市	③学校と家庭 の課題		学校の空き教室を利用し放課 後学習支援を継続的に実施し ているが他の体験活動ができ ていない。	市内8小学校と3中学校 で放課後学習支援事業 を実施している。	前年度の事業に加え、委託事業を実施 し、今子屋事業の充実を目指す。	寺子屋事業を実施する地域が 増えることで放課後の子どもた ちの学習機会や体験活動が増 える。	地域住民の参画に よる寺子屋の数	11	件 13	11	委託事業により新たに中学生向けの寺子屋が実施できた。 寺子屋コーディネーターや学宮支援員等の確頼、養成が課 選である。本業について成り向けることで利用役遣を図る こ。本意 こともに、運営を担う地域住民の確保・養成を図ります。 のの のの。 のの。 のの。 のの。 のの。 のの。 のの
22225伊豆 の国市	②学校と地域 の課題	通学路等の 地域安全・地 域防災	児童の移動経路における危険 箇所を見守るボランティアが不 足している	地域学校協働本部参画 団体有志、および地域住 民有志を見守りポラン ティアに登録	これまで地域学校協働本部ごとに契約していた保険に対し、全市をかバーする 音楽鉄(学校文提者補償)を導入して見 守り未実施校にも拡張する	小学校区単位での児童見守り 体制の構築	登録人員数	85	۸ 100	75	既存の見守り活動について拡充を図っていたが、高齢化・なり手不足を確由とした金貴減少によって見守りを休止した団体があり、目標機を下回り、自機を受ける。 (本名) (本名) (本名) (本名) (本名) (本名) (本名) (本名)
22301東伊豆町	②学校と地域 の課題	学校支援ポラ ンティアの確 保・育成	学校支援本部実行委員会員が 18名(2名退会、1名入会)だ が、高齢化により活動の維持 が難しくなっているため、協力 者の確保・育成に努める。	①ロコミによる勧誘②PT A等の会議に出向きPR ③テラシ等で募集	①口コミによる勧誘でPTA等の会議に出 向きPR3テラン等で募集 の継続、若手 が入れば、コテイネーター等の研修に 行ってもらうようにしたいと考えている。	安定した活動ができようにする ため、今年度は40-50代をター ゲットに勧誘し、会員を増やして いく。	課題となっている、 会員数の増加。	18	人 20	18	実績としては、現状維持のままで、目標値まで人数を増やすことが出来なかったが、引き続き40-50歳代をラーケットにPRしてい、規管としてはエーディネーター機成績に2名を305-505-505-505-505-505-505-505-505-505-
22305松崎 町	②学校と地域 の課題	通学路等の 地域安全・地 域防災	バス停までの下校路は、車の 通行量が多ん危険があるため 見戻り支援を行っているが、支 援員が不足している。		地域への協力を依頼し、十分な対応ができるよう支援員の確保に努める。	地域全体で子どもの安全を見守 る体制の確保	登録支援員の人数	8	Д 10	9	目標値は下回ったが、見守り活動の見直しの協議を重ね、 課題の改善は見られている。 高齢化等により、現在の支援員のの維持が懸念されるた っ。本 の、新たな支援員の確保が必要である。 2015 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,101 101,1
22325函南 町	②学校と地域 の課題		学校に対する多様な協力活動が行えるよう地域住民等を対象にポラシティの募集を行っているが、登録されているボランティアと学校が必要とする学習支援ポランティアが一致しない状況にある。	活動の継続意思確認を 行い、使用しやすいボラ ンティア名簿の作成を目 指している。 各校のHPIC「学校運営 協議会」や「地域学校協	これまで協働本部名で発行していたボランティア事業ちらしを学校長名で発行するといる学校長名で発行する。 をいる学校の大きな問いたい人材 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、おいました。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	学校が必要とする学習支援ポランティアの活動する件数が増加 することで教員の業務負担が軽 減する。	学習支援活動に参	25	件 30	29	学習支援活動の件数は増加しているが、目標とした平均 件数の速度に至らなかった要因は、1担任の先生力に対し 学校は動活動性機質の配置、企働が削減のたれておらずと は 2 mm 2
22341清水町	③学校と家庭 の課題		の低下・子供の安全・安心な活 動場所の確保が課題となって	放課後や休日の教室の 実施や外国人等の学習 支援を実施している。	- 各小学校での放課後体験教室を年間1 2回以上実施する。 - 土曜日、休日の体験教室を年間12回以 上実施する。 - 学習支援などの継続的な活動の支援員 を15人以上確保する。	放課後、休日での家庭以外での 学習、体験・クラブ・教室)・地域 行事に加入・参加する児童・生 徒が増えることで児童生徒の学 カ向上及び安全な場所の確保 を行う。	日以上、学習・体験・ 講座・教室・クラブ地	52	% 60	集計中	全体の約半数の児童・生徒が、放課後・休日での家庭以外 ての学習・体験・ウラブ(教堂)・地域行事に加入・参加してい るが、日報意成には全ていない。放理機の体験教室の回 数を増やし開催してきたが定員等に限りがあり解決まで至ら ない。彼然として子供たちの安心な活動場所の確保が課題 どなっている。
22342長泉 町	②学校と地域 の課題		ボランティアスかッフの高齢化 により支援内容に偏けが出る。 また、千育て世代、学生等の 参画が得られない。	広報紙による周知と地域 学校協働活動推進員の ネットワークによるロコミ での増員	SNSを活用した広報を行い、若年世代の 関心を高める。 近隣の大学、高等専門学校、高等学校 への協力依頼をする。	多世代のスタッフの登録数が増加し、安定した人材パンクを確保できる。	人材パンクのスタッ フの登録数	164	Д 185	5 197	子供に関するボランティア設明金を行うとともに日頃から本 町で行われている大学生等への通学精助事業におけるボラ ンティアへの地道な声掛けにより若い世代へのボランティア 68 か選んだ。 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80 68 80
22344小山 町	②学校と地域 の課題	学校支援ポラ ンティアの確 保・育成	ボランティアが地域、学校に定 着してきているが、高齢のボラ ンティアの継続が多く、若い世 代への広がりが課題となって いる。	こども園、小中学校の環境整備、行事・学び支援、読み聞かせを中心に、今部5年度は180件の支援活動が行われた。若い世代へのポランティアの広がりが課題となっている。	地域でのボランティア募集を継続するとと もに、国・学校を通じての保護者世代へ の働きかけを強化していく。また、学校間 交流の中で、高校生による小中学校での ボランティア活動の継続・拡大を図ってい く。	ランティアの年齢の幅を広げ、ボランティア数を増加させ、活動を	ティア活動参加者数	延 ベ 777	Д 800	114	コーナ後の変化で、こども圏・小中学校の行事が増加した。このため行事支援件数が33件〜40件、学び支援が51件〜80件。長か間かせが27件〜43件に増加した。このため、4本年度の美機造が日標機を大幅に上回った。そのよう、件数や極人数は増えているものの、ポランティアの固調。異だ、高齢には進んでおり、すそ野を広げていくことが課題となっている。
22209島田市	②学校と地域 の課題	学校支援ポラ ンティアの確 保・育成	地域における地域的なつなが りの希達化による地域の教育 力の低下が温度である。 また、全部中学校に地域学校 協働本部を設置したが、学校 によりポランディア人教にはら つきがある。	地域学校協働活動推進 員を25名委嘱し、市内全 小中学校に地域学校協 機本部を設置している。 また、地域学校協働本部 運業員会を年2回開催 し、情報共有等を図って いる。	・引き続き地域学校協働活動推進員を市 内全小中学校に1人以上配置する。 ・地域学校協能活動推進員は地球パラン ティアとの運輸調整を行い、地域人材に よる学習支援・校内環境整備、キャリア ・各学型の活動を全小中学校に情報共 有するとさに、地域学校協働活動推進 員同士の情報交換の場を年2回設ける。	・地域全体で学校教育を支援 し、地域でるみで子供を育てる 体験を整える。 ・地域社能の生きがいづくりや 自己実現につながる。 ・一子供たちの地域への理解・関 心が深まる。	活動した地域ボラン ティア人数(延べ人 数)	300 5	A 310	209	令和6年度に小学校の統合により学校教が減少することを 開業え、指揮である活動した地域ボランティアの人教(基ベ 人権)を前年度より少なくしたが、目標より高減少数が大き 808 期間用の社会教育選の製具による当該事業の概要や活動 1802 では、日本教育選の製造したる当該事業の概要や活動 1802 でしているが、各小中学校の教員に対しても行うことにより、事 大事業 の選挙を深め、各学校の取り組みを拡大させていく。
22212焼津市	②学校と地域 の課題	青少年の健 全育成	コロナ福以降、地域活動が行われなくなり、児童が地域の人と関わりながら多様な転換をする機会が減ってしまっている	力を仰ぎながら放課後子	地域の人々や、市他課と協力して、全小学校区で放課後子ども教室を複数回開催する。	児童に、放課後子ども教室での 体験を通じて地域の人と触れ合う ことで、児童と地域の繋がりを 深める。	加児童数	452	۸ 500	403	許年度も開催した事業については、参加者数が増加していたが、事業数が減少したため、結果的に数値目標に達していない。協力してくれる団体を増やし、事業数の確保を目指す。 □ 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
22213掛川 市	②学校と地域 の課題		地域ボランティアが固定化して おり高齢化が進んでいる。ま た、活動に参加してくれる人数 も少なくなっている。	- 啓発品の作成・配布。 (クリアファイル・チラシ) - ホームページ、広報紙 での活動の周知	 高齢者だけでなく保護者や地区組織等に依頼し新しいボランティアを増やす。 	会和7年度までに圏。学校支援 ボランティアの人数が延べ 120000人に到達するようにし、地域学校協働活動の活発化を 目指す。	園・学校支援ポラン ティアの延べ人数	836 85	A 110	910	地域学校協働活動は各地域において新しいイベントを企画 するなど、活発に行われている。活動の関助の方法やボラ ンティアの募集などの情報を信が観ぎるる。次年度は市 LNE・HPによる情報提供を積極的に行っていきたい。 80 年 日 10 年

実施 自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現伏・課題の詳細	これまでの取組状況	左配票屋の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事象で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	数値の	単単	本 駅の年 に 皮	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
222143 <u>藤</u> 枝市	①学校運営 上の課題	教職員の時間外勤務の 足正	市内の教員の約31%が、月45 時間以上の時間外勤務を行っ ており、教員の業務負担軽減 による時間外勤務の縮減が課 題となっている。	学校協働活動推進員を 配置。学校と地域のこま	市全体で地域学校協働活動推進員を25名配置域括含む) 人材活用希望調を実施し、学校の希望 大材活用希望調を実施し、学校の希望 する地域人材の確保を図ることで教員の 業務負担を測る。	学校・家庭・地域の役割分担の 明確化により、地域との協働が 進み、教員の業務負担が軽減 する。	月45時間以上の時間外勤務を行う教員 間外勤務を行う教員 の割合	31			20.3	連絡会等を適じた各校区の地域協働活動推進員のノウハウ の共有の効果もあってか、目標館に対しては上回る結果と なったが、依然のい、一セントを超える飲食力(45時間と) は 34 4 35 4 36 5 37 5 38 5
222143_藤 枝市	③学校と家庭 の課題	放課後等における多様な体験活動	「故議後子ども教室」について、未設置学区における新規 開設や、登録児童教の減少が 課題となっている。	市内17小学校区のうち 10小学校区で7教室を実 施、現在開設している教 室の継続支援と参加促 進を図るとともに、新規 開設を進めらため、様々 な場面で事業の周知啓 発を図っている。	・未設置学区の学校運営協議会等で運 窓内を募る。 ・募集チラシを小学校を選じて対象学区 の全児童に配布する。市ホームページや 広報誌で教室運営について紹介する。 ・利用する児童及び保護者向けのアンケート調査を実施し、ニーズを把催する。	放課後子供教室の新規開設や 登録児童教の増加を通じ、子ど もの居場所を確保することで数 競技等に多体な体験活動がで きるが放課後子ども教室を利用 する児童が増える。	放課後子ども教室の登録児童教	469	٨.	710	466	教室既設の学区の子どもには、放課後の居場所の提供ができているが、未設置学区の新規開設に続い付かなかった。 こかは「機能を達成できなかった原因であると考えられる。 こかは「機能を達成できなかった原因であると考えられる。 高 高 2 日本のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般
222232_御 前崎市	②学校と地域の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	ボランティアの年齢構成も高齢 化が進んでいる。学校支援とし でボラシティア事業を始めて数 年が経っているため、超続を希 望しない人も増えている。今 後、学校が増えている。今 後、学校が増えている。 が必要となる。	・学校支援だよりを各校に配布し、地域学校協働 に配布し、地域学校協働 活動の理解を広める。 ・ボランティア募集のチラ シを作成し、学校や公民 部に配布する。 ボランティア交流集会で 支援者同士のつながりを 構築する。	・学校支援だよりを各校に配付し、地域学 校協働活動の理解を広める。 ・ポランティア事業のチランを作成し、学 校や公民館に配布する。 活動の周知やポランティアの募集をす る・ポランティアを流集会で支援者同士の つながりを構築する。	より若い年齢層のボランティアを 寒りつつ、学校と地域との連携 を促進させる。	ボランティアの登録 者数	203	٨.	210	221	・ボランティア交流集会を実施し、ボランティア同士の横のつながりを構築することで、そこから新たな人材様保につながるケースがあり、登録を告やすことができた。それによりなの要型に応じた支援体制を整えることにつながった。 ****・***・****************************
22224菊川 市	③学校と家庭 の課題	02 放課後等 における多様 な体験活動	令和5年に新型コロナウイルス が5類感染症に移行し、放課 後子ども改革も徐々に活動時 関してきたが、実施回数はコロナ前の水準に戻っておらず、子 供への体験活動の提供機会が 減少している	ることに注力し、開催校 数は増加したが、活動回 数や活動内容の向上に 関する取り組みはできな	学校、コーディネーター、サポーターと打合せを実施し、新規活動内容や実施回数の検討を行う	放課後子ども教室の実施回数を 増加させることで、子供へ提供 する体験活動の機会、種類が増 加する。	放課後子ども教室の実施回数	85	その他	95	106	昨年度と比較すると、各校の活動の種類や回数が増加し、 開催校数も4校から6校へ増加しているため、子供へ提供す る体験活動の機会、種類が増加したと言える。しかし、未だ ッイでの学校での開閉が実現できていないことが課題であ るため、再会できていない学校に関しては地域、学校と協議 程はま は、ま は、ま は、ま は、ま は、ま は、ま は、ま は、ま は、ま は
22226钕之 原市	②学校と地域 の課題	その他	コミュニティ・スクール全校導入 後3年が経過したが、地域学 校協働活動に対する保護者の 認知度が低い。	導入当初に地域学校協 働活動推進員の写真を 載せた広報誌を全戸配 布し、各学校区では毎年 を北た在報誌を配布して いるが、年度末に行っては、 小学校の保護者の認知 度は31%、中学校は2 0%という結果だった。	・紙媒体だけではなく、市のLINEやまきの はら子育で総合サイト等で精構的に地域 学校組施活動について無知さい。 各学校本ールページやプログ等で広報 しているが、そのことが知られていないの しているが、そのことが知られていないの チランを作成する。	コミュニティ・スクールについて の広報を強化することで、地域 学校協働活動の認知度を上げ る。	各学校における保護 者前け年度末学校 評価アンケート内、 「小学校(中学教)地 域学校協働活動の 認知度」項目の回答 を指標とする。	小学校31中学校20	%	50	小学校中学校総計 41%	数値に明確な向上は見られたものの、目標とする数値には 届かなかった。地球学校協働活動推進員は地域ポランティ アと的危機や授業補助などに十分及り、でいるため、まだア ブローデしていない地域の団体や、町内会等へ、行政から 2 2 4 2 8 0 1 版報活動を実施することが必要と考えられる。 80 1 80 2 80 2 80 5 80 6 80 6 80 6 80 7 80 7 80 8 80 80 8 80 8
22808牧之 原市菊川 市学校組 合	②学校と地域 の課題	その他	コミュニティ・スクール全校導入 後3年が経過したが、地域学 校協働活動に対する保護者の 認知度が低い。	導入当初に地域学校協 機活動推進員の写真を 載せた広報誌を全戸配 布し、各学校区では毎年 それぞれの推進員が呼 成した近報誌を配布して いるが、年度末に行った 認知度アンケートでは、 小学校の保護者の認知 度は31%、中学校は2 0%という結果だった。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		各学校における保護 者向け年度末学校 評価アンケー内、 「小学校(中学校)地 域学校協働活動の 認知度,項目の回答 を指標とする。	小	%	50	小学校中学校総計%	数値に明確な向上は見られたものの、目標とする数値には 原からかった。必要等的は断圧を対象に対象に対象であった。 アとの心臓や投棄機能などに十分な力しているため、まだア プローラにしているい地域の温体や、関内を等へ、行政から の また の
22424吉田町	③学校と家庭 の課題	放課後等にお ける多様な体 験活動	平日の4時間接乗日が増え、 放譲後における安全で安心を 犬どもの居場所の確保が一層 必要とされるようになっている。	すべての小学校で4時間 授業日に対応した放課 後子供教室を実施してい る。	放躍後子供教室において、子供が様々な体験ができる機会を提供する。	放課後子供教室に参加した子 供が権々な体験ができたと感じ ることができる。	放課後子供教室で 子供が様々な体験 ができたと回答する 保護者の割合(保護 者へのアンケート調 査)	84	*	85	94	季節ならではの活動や、工夫を基心した工作活動、また、地域で様々な定動や仕事をもれている方々を別いての選託を通して、多くの子どもたらが様々な体験を得られたと感じることができた。 8.84年8月8日 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日
22429川根 本町	②学校と地域の課題	その他	地域ボランティアの人材の園 定化や高齢化が懸念される	活動内容により、知人等 に地域ボランティアを依 頼している	全町民に周知を行い、事業の理解をして いただき、地域ボランティアに登録	ボランティア人数が増加すること でより活発な地域学校協働活動 を行う		200	.	400	230	全世帯配布による広報紙で募集を行ったが、登録数が少な い状況だった。そのため、町IPやUINE等を用用し、幅広い 世代に事業説明等を行い、募集を行う必要がある。 18 年8 第8日 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日2年 18日
22211磐田 市	②学校と地域 の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	学校評価アンケート「子どもたちが、地域の人たちと学校や 地域で関わっている」に「音さい の回答する場合が、コロナー 前にはる朝近くに遠していたが、コロナー備には了朝にます低 下した。	合わせが続いていた地環 検子供教室を、実施可能 なものが発変を、実施可能 なものから順果、学校を アンケート「子どもたち が、地域の人たちと学校」 に肯定的な回答をする制 に肯定的な回答をする制	・市内全校に配置した地域学校協働活動 推進員が連絡調整等を担い、学校と地域 の交流活動を推進する。 今和6年度に再開いた地域との交流活動や放譲後子供教室等をさらし拡充し、 学校と地域の連携・協働を確かなものと する。	学校と地域の連携が強化され、 地域との協働が進む。	地域学校協働活動において、ポランティアに参加した延べ人数。	518 6	Α.	600	129 54	地域の教育力を活かした学校教育活動が、コロナ福以前と同様のレベルに戻ってきたため、大幅に参加者が増加した。 主、推進委員の世界のレベルのマ、市内の学校の活動を情報表もし、ボランディア等の活用が広がった。今後 80日 は、建選委員の情報来有を進めていきたい。 80日 は、10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日
22216袋井 市	②学校と地域の課題	②学校と地域 の課題	地域学校協働活動推進員の固定化、高齢化が進んでいる。 また、多くの住民から、学校へ のアプローチ方法が分からな いとの声があがっている。	会が83%にまで回復し 今年度は新たに2箇所の 地域学校協働本部を立 ち上げ、来年度ちに1 箇所設置される。地域学 校協働活動が活性化し つつある。	地域学校協働活動推進員の役割を明確 にしたり、打合せ会を実施したりすること で、地域学校協働活動を活性化させる。	地域学校協働活動の活性化に より教育の意識が変わり、強固 な連携体制が変われる。地域学 校間の好循環が生まれ、さらに 活動が活性化する。	市内小中学校に調 「地域ボランティアに よる支援活動の件 数」	102	件	110	207	成果としては、本年度の実績値が本年度の目標値を大きく 口回る機能となった。地域に教育活動の手動けしてもらうこ とで、教室での学習とは速ヴザジを子ともたら大変能するこ さかできた。課題は、各校において支援活動数に差があるこ 取りま 取りま にはいてきない。 ないます。 は、各校において支援活動数に差があるこ ないます。 は、名様において支援活動数に差があるこ ないます。 は、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に差があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、名様において支援活動数に表があるこ をは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは
22221湖西市	②学校と地域 の課題	学校支援ボラ ンティアの確 保・育成	地域との連携を選め、ボラン ティアの確保を増やし、学習支 援や学校環境整備等の活動日 数を増やす。	地域ボランティアへの対応に不慎れな推進員もおり、ボランティアをうまく活用できていないケースもあった。	地域との協働が進み、普段の授業以外 での学習機会や学校環境整備等の機会 を増やす。	書録の授業以外での学習機会 や学校環境整備等の機会を増 やし、地域との協働を進める。	1校あたりのボラン ティア活動日数。	36	その他	40	61	・ボランティアの確保に注力した学校もあり、前年度よりボランティアの活動、数は増加した。 ・特にも地学校協服活動構造員が常ませんした学校では、学 大変接ボランティアの活動も増えたため、効果は大きかっ 18 4年 た。 18 4年 た。 18 4年 た。 18 4年 た。 18 4年 た。
22461森町	③学校と家庭 の課題	放課後等における多様な体験活動	「授業の内容がわかる」と回答 した児童が年々減少してきて おり、令和5年度は91.6%で あった。 また、保護者の評価はもっと低 く、80.7%であり、学習を行う 事に対する指端等が学校・家 飯の共通の課題となってきて いる。	昨年度は夏休み学習支 接寺子屋として、退職教 論や大学生等による学 習支援を・小学生を対象 に実施した。	・学習支援員(退職教員)を3名から5名 に増員。活動支援員(大学生等)を確保 し、夏休みにおける学習支援を実施す る。 ・地域任限を講師とし、夏休みに文化体 級講座を実施する。	学習支援や文化体験に参加することで、学習に対しての自信が持てる児童が増える。	「授業の内容がわかる」と回答した児童 の割合(森町教育委 員会の学校評価の 報告について)	92	×	93	90.5	■ 原納休暇に学習支援寺子屋を実施したことで、参加児童は 集中し学習に取り組むことができた。 一方で、見知集中がけったな、定期的に学習支援を行う必 受性が浮き彫りになった。 3 84 ※ 次年度は、夏斯休暇と放譲後を利用し定期的に学習支援 884:7 を実施を実現したい。 2 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8